

日本人移住120周年及びフィリピン日系人リーガルサポートセンター（PNLSC）設立  
20周年記念式典における越川大使挨拶

（花田公使兼総領事代読）

ここで、越川和彦駐フィリピン日本国大使に代わりメッセージをお伝えしたいと思います。

ヴィンセント・J・ガルシア議員、  
イネス・山之内・P・マリヤリ フィリピン日系人会連合会会長、  
河井弘之 フィリピン日系人リーガルサポートセンター議長、  
猪俣典弘 フィリピン日系人リーガルサポートセンター代表理事、  
ラウラ・V・セスポン ミンダナオ国際大学学長  
ご来賓、ご列席の皆様、

日本人のフィリピン移住120周年とフィリピン日系人リーガルサポートセンター設立20周年を迎えるにあたり、全ての日本人移住者と日系人の皆様、並びにPNLSC関係者の皆様に心よりお祝いを申し上げます。また、困難な時代にあっても、日本とフィリピンの友好の架け橋としての役割を果たしてきた皆様のたゆまぬ努力と忍耐力を称賛いたします。

本年は、ここミンダナオ島ダバオに日本人移民が入植して120年の節目の年にあたります。戦前の困難な建設プロジェクトとして知られるケノン道路が完成したルソン島北部のバギオとともに、勤勉で高度な技術を持った日本人移民のおかげで、ダバオには活気に満ちた日本人コミュニティが誕生し、約24,000人の日本人移民がアバカ産業に従事したとされています。また、これらの日本人移民の子孫は、日本とフィリピンの間で継続する絆の象徴的な存在となっています。

第二次世界大戦を迎える中で、日本人移民とその家族、フィリピン日系人は文字通り両国間の狭間に立たされ、言葉では言い表せない困難な選択を迫られました。そうした歴史的な苦難にもかかわらず、彼らは日本とのつながりを維持しながら、果敢に困難に立ち向かい、新たな環境に適応してきました。

当初、1970年代、80年代にバギオとダバオに設立されていた日系人会は、1990年代以降、フィリピンのさまざまな地域に継続的に拡大してきました。昨年、パラワンで13番目の日系人会が設立されたことは、日系人コミュニティが自らの課題に対処するために協力して努力してきた証です。

駐フィリピン日本国大使として、日系人社会の課題解決に向けて力を合わせて取り組んでいる皆様一人ひとりの幅広い活動に改めて心からの敬意と感謝を申し上げます。同時に、日系2世の方々の高齢化が一層進んでいるという厳しい現実を心に留めておくことも重要です。この現実直面して、フィリピン在住の日系人の方々は、残留日系人問題を含め、数多くの課題と闘い続けています。

フィリピン日系人リーガルサポートセンターは、2003年の設立以来、戦争によってフィリピンに残留を余儀なくされた日系2世の方々の身元確認と日本国籍取得の支援に熱心に取り組んでいます。彼らは、フィリピン国内の日系人だけでなく日本各地の親族を熱心に、粘り強く訪問しました。河合代表理事、猪俣代表理事をはじめとするPNLSC関係者の皆様の献身的な貢献とたゆまぬ努力に、深く敬意と感謝の意を表します。

日本大使館は、残留日系人の日本国籍取得と日系人が直面する様々な課題への取り組みに関して、フィリピン日系人会連合会、各地の日系人会、PNLSCと引き続き緊密に協力していく所存ですので、ご安心ください。

先人の尽力により、現在、日本とフィリピンは、人的交流、経済、文化、安全保障等の様々な分野において、かつてない強い信頼で結ばれた深い協力関係を築いています。

今月初め、岸田総理がフィリピンを訪問し、日本の総理大臣として初めてフィリピン上下両院合同議会で「次世代に繋ぐ心と心の絆」と題する政策スピーチを行いました。今や日本とフィリピンの関係は、いわゆる「黄金時代」から新たな高みに発展しようとしています。

私は、南米日系人の2世、3世と同様に、フィリピンの新世代の日系人が日比関係の更なる深化と繁栄に貢献することを強く期待しています。

最後に、日本人移民と日系人の皆様、そしてPNLSCの皆様にご心よりお祝いとご多幸をお祈り申し上げます。皆様のご健勝とご活躍、そしてフィリピン日系人コミュニティの更なる発展をお祈り申し上げます。